令和6年9月5日（木）

第13回静岡県高齢者福祉研究大会

介護福祉士養成校における
介護実践研究の現状と課題

―介護総合演習「実習指導Ⅱ」における取組から―

静岡県立大学短期大学部
社会福祉学科 介護福祉専攻
准教授　奥田都子　・　講師　安　瓊伊

研究の目的

介護福祉士の養成カリキュラムにおいて、≪介護総合演習≫では、介護実践に必要な知識と技術を統合し、実習の教育効果を高めるとともに、事例検討を通して介護実践を科学的に探究する。

本学の介護福祉専攻では、令和4年度から、全員が個別の研究テーマを設定して「介護実践研究」に取り組み、介護総合演習の集大成として「介護実践研究報告書」を作成している。

本報告では、令和4-5年度の介護実践研究報告書の分析を通して、介護福祉を学ぶ学生たちが、実習を通してどのような問題関心を抱き、何をテーマに研究に取り組んだかを明らかにするとともに、実践研究の展開や研究成果の還元に向けての課題について考察することを目的とする。

介護福祉士養成カリキュラム

教育内容	時間数
人間と社会	240
人間の尊厳と自立	30以上
人間関係とコミュニケーション	30以上
社会の理解	60以上
人間と社会に関する選択科目	―
介護	1,260
介護の基本	180
コミュニケーション技術	60
生活支援技術	300
介護過程	150
介護総合演習	120
介護実習	450
こころとからだのしくみ	300
発達と老化の理解	60
認知症の理解	60
障害の理解	60
こころとからだのしくみ	120
医療的ケア	50
合計	1,850

介護の実践の基盤となる教養・倫理的態度を学ぶ。

尊厳の保持や自立支援の考え方を踏まえ、生活を支えるために必要な専門的知識・技術を学ぶ。

介護技術の根拠となる人体の構造や機能および心理的側面への配慮について学ぶ。

医療職との連携の下で、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。

研究の方法

静岡県立大学短期大学部　社会福祉学科介護福祉専攻の卒業年次生が、令和4年度～5年度に取り組んだ「介護実践研究」42件について、以下の5つの視点から、実践研究の現状を概観し、課題を抽出した。

（1）研究テーマの傾向
（2）研究目的
（3）研究方法
（4）研究期間
（5）その他（文献利用の状況、倫理的配慮の記載など）

結　果
（1）研究テーマの傾向

「レクリエーションの取り組み・効果」（26%）
「身体介助方法・技術の工夫」（21%）
「認知症ケア」（17%）
「コミュニケーションの工夫、負担感」（17%）
「その他の支援」（10%）
「介護職員の健康」（10%）

タイトルに「認知症」を含む研究は38%
認知症と切り離しては語れない介護実践を反映

介護実践研究のテーマ一覧		件数
レクリエーション	日中活動の少ない方のＱＯＬ向上に関する研究	11
	レクリエーション活動が要介護高齢者に与える効果に関する研究	
	レクリエーション活動を通じて利用者の意欲の変容を探る	
	レクリエーションによる要介護高齢者の主体性を引き出す効果	
	利用者にとって有意義なレクリエーション活動とは	
	レクリエーション活動が高次脳機能障害者の心理的側面に及ぼす影響～Ａさんに対する足浴の実践を通じて～	
	認知症高齢者の不安に対するレクリエーションのあり方	
	認知症高齢者の行動・心理症状の軽減に向けたレクリエーションについて知る	
	認知症高齢者の「その人らしさ」を尊重したレクリエーション活動について	
	個別のレクリエーション活動が認知症利用者Ｂさんの不安発言・徘徊にもたらす効果	
	認知症高齢者に対するレクリエーション支援	
身体介助方法・技術	移乗介助における身体的負担と福祉用具活用に関する研究	9
	利用者のＡＤＬと理解度に応じた移乗介助	
	利用者の安全かつ自立に向けた移乗・移動介助の考察	
	快適に入浴するための支援	
	座位姿勢が利用者に及ぼす影響	
	座位姿勢が困難な方の食事介助方法について	
	姿勢支援が利用者に及ぼす効果～食事介助におけるシーティングアプローチを通じて～	
	片麻痺のあるＡさんの食べこぼしを軽減する検討	
	半側空間無視のある対象者の自立支援に向けて	
認知症ケア	認知症高齢者の自力摂取を継続していくための食事介助	7
	認知症高齢者の排泄介護拒否を軽減する介助実践	
	認知症高齢者と必要なケアについて	
	認知症高齢者の自己効力感を高める専門職としての関わり	
	パーソン・センタード・ケアに着目した認知症高齢者との関わり方	
	施設における認知症高齢者の生活環境への工夫と効果	
	回想法が認知症高齢者に及ぼす効果	
コミュニケーション	コミュニケーションの困難さが与える身体的・心理的ストレスに関する文献研究	7
	言語による会話が困難な利用者に対するコミュニケーションについて	
	障害者と高齢者のコミュニケーション方法の違いに関する研究～利用者と心が通うコミュニケーション方法とは何か～	
	認知症利用者の不穏症状改善を目的としたコミュニケーションによる対応	
	認知症高齢者の帰宅願望に効果的な対応とコミュニケーション	
	コミュニケーションが認知症高齢者に与える効果の検討～メモリーブックを活用した回想場面を通じて～	
	認知症高齢者に寄り添ったコミュニケーションのためのアプローチ	
その他支援	終末期ケアにおける意思決定支援の在り方	4
	障害受容と支援の在り方に関する考察	
	障害者の人権擁護に関する研究　～身体拘束ゼロに向けた考察～	
	障害者支援施設における利用者間のトラブルの現状と対応	
職員の健康	福祉用具の支援における身体的負担―利用者目線・職員目線からの考察―	4
	介護現場における職場環境に関する研究～介護職員の健康を守るには～	
	コミュニケーションの困難さによって生じる介護職員の介護負担感について	
	介護職の腰痛予防と改善へのアプローチ	

結　果

（1）研究テーマの傾向

①　レクリエーションの取り組み・効果に関するテーマ

	介護実践研究のテーマ
レクリエーション	1．日中活動の少ない方のＱＯＬ向上に関する研究
	2．レクリエーション活動が要介護高齢者に与える効果に関する研究
	3．レクリエーション活動を通じて利用者の意欲の変容を探る
	4．レクリエーションによる要介護高齢者の主体性を引き出す効果
	5．利用者にとって有意義なレクリエーション活動とは
	6．レクリエーション活動が高次脳機能障害者の心理的側面に及ぼす影響～Ａさんに対する足浴の実践を通じて～
	7．認知症高齢者の不安に対するレクリエーションのあり方
	8．認知症高齢者の行動・心理症状の軽減に向けたレクリエーションについて知る
	9．認知症高齢者の「その人らしさ」を尊重したレクリエーション活動について
	10．個別のレクリエーション活動が認知症利用者Ｂさんの不安発言・徘徊にもたらす効果
	11．認知症高齢者に対するレクリエーション支援

結　果

（1）研究テーマの傾向

②　身体介助の方法･技術を探求するテーマ

介護実践研究のテーマ	
身体介助方法・技術	1．移乗介助における身体的負担と福祉用具活用に関する研究
	2．利用者のＡＤＬと理解度に応じた移乗介助
	3.利用者の安全かつ自立に向けた移乗・移動介助の考察
	4.快適に入浴するための支援
	5.座位姿勢が利用者に及ぼす影響
	6.座位姿勢が困難な方の食事介助方法について
	7.姿勢支援が利用者に及ぼす効果～食事介助におけるシーティングアプローチを通じて～
	8.片麻痺のあるＡさんの食べこぼしを軽減する検討
	9.半側空間無視のある対象者の自立支援に向けて

結　果

（1）研究テーマの傾向

③　認知症ケアに関するテーマ

介護実践研究のテーマ	
認知症ケア	1.認知症高齢者の自力摂取を継続していくための食事介助
	2.認知症高齢者の排泄介護拒否を軽減する介助実践
	3.認知症高齢者と必要なケアについて
	4.認知症高齢者の自己効力感を高める専門職としての関わり
	5.パーソン・センタード・ケアに着目した認知症高齢者との関わり方
	6.施設における認知症高齢者の生活環境への工夫と効果
	7.回想法が認知症高齢者に及ぼす効果

結　果

（1）研究テーマの傾向

④　コミュニケーション方法の工夫・負担感に関するテーマ

介護実践研究のテーマ	
コミュニケーション	1.コミュニケーションの困難さが与える身体的・心理的ストレスに関する文献研究
	2.言語による会話が困難な利用者に対するコミュニケーションについて
	3.障害者と高齢者のコミュニケーション方法の違いに関する研究 ～利用者と心が通うコミュニケーション方法とは何か～
	4.認知症利用者の不穏症状改善を目的としたコミュニケーションによる対応
	5.認知症高齢者の帰宅願望に効果的な対応とコミュニケーション
	6.コミュニケーションが認知症高齢者に与える効果の検討 ～メモリーブックを活用した回想場面を通じて～
	7.認知症高齢者に寄り添ったコミュニケーションのためのアプローチ

結　果

（1）研究テーマの傾向

⑤　その他の支援　　⑥介護職員の健康に関するテーマ

介護実践研究のテーマ	
その他支援	1.終末期ケアにおける意思決定支援の在り方
	2.障害受容と支援の在り方に関する考察
	3.障害者の人権擁護に関する研究 ～身体拘束ゼロに向けた考察～
	4.障害者支援施設における利用者間のトラブルの現状と対応
職員の健康	5. 福祉用具の支援における身体的負担―利用者目線・職員目線からの考察―
	6.介護現場における職場環境に関する研究～介護職員の健康を守るには～
	7.コミュニケーションの困難さによって生じる介護職員の介護負担感について
	8.介護職の腰痛予防と改善へのアプローチ

結　果
（2）研究目的

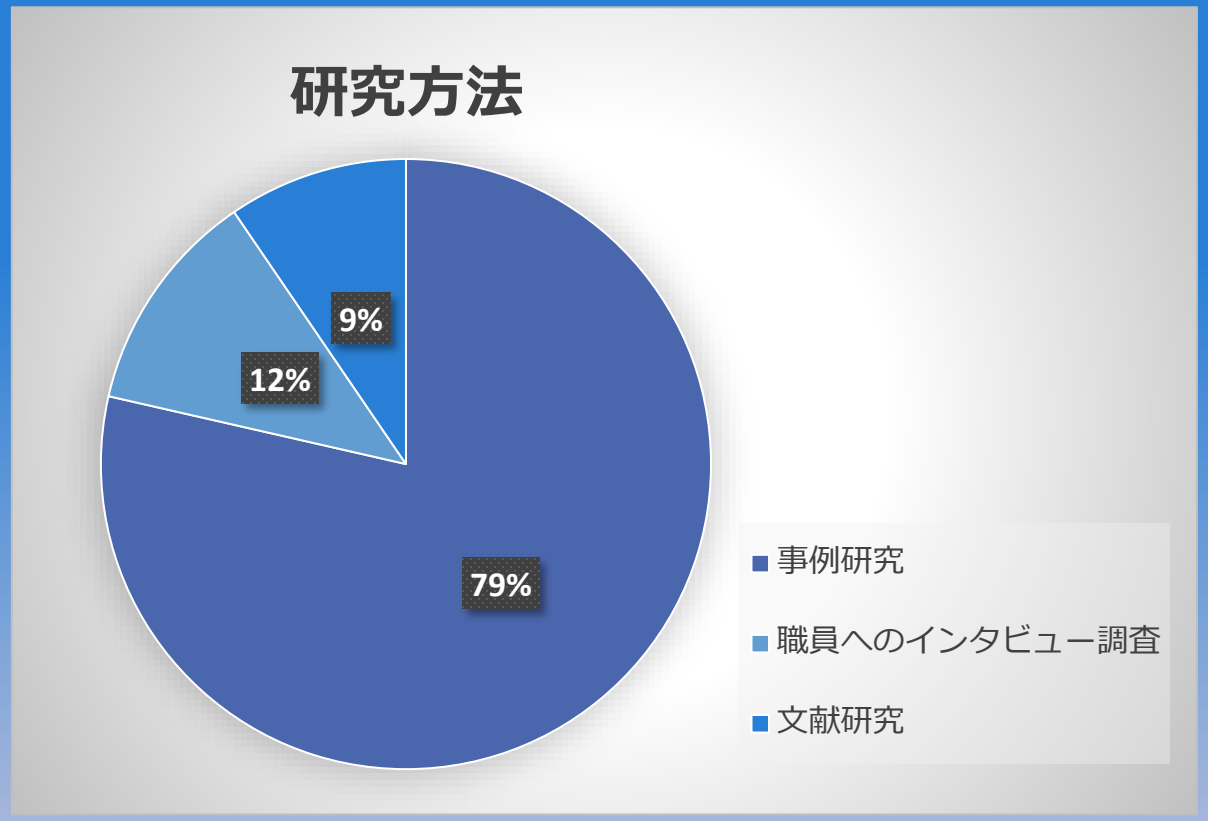
●レクリエーションの効果を明らかにする、検証する
（認知症BPSDの軽減や意欲・主体性を引き出す効果など）

●認知症ケアの実践による効果を明らかにする

●コミュニケーションの工夫によるBPSD改善の効果を明らかにする

●介護職員の健康阻害要因と改善への課題を明らかにする

結　果
（3）研究方法

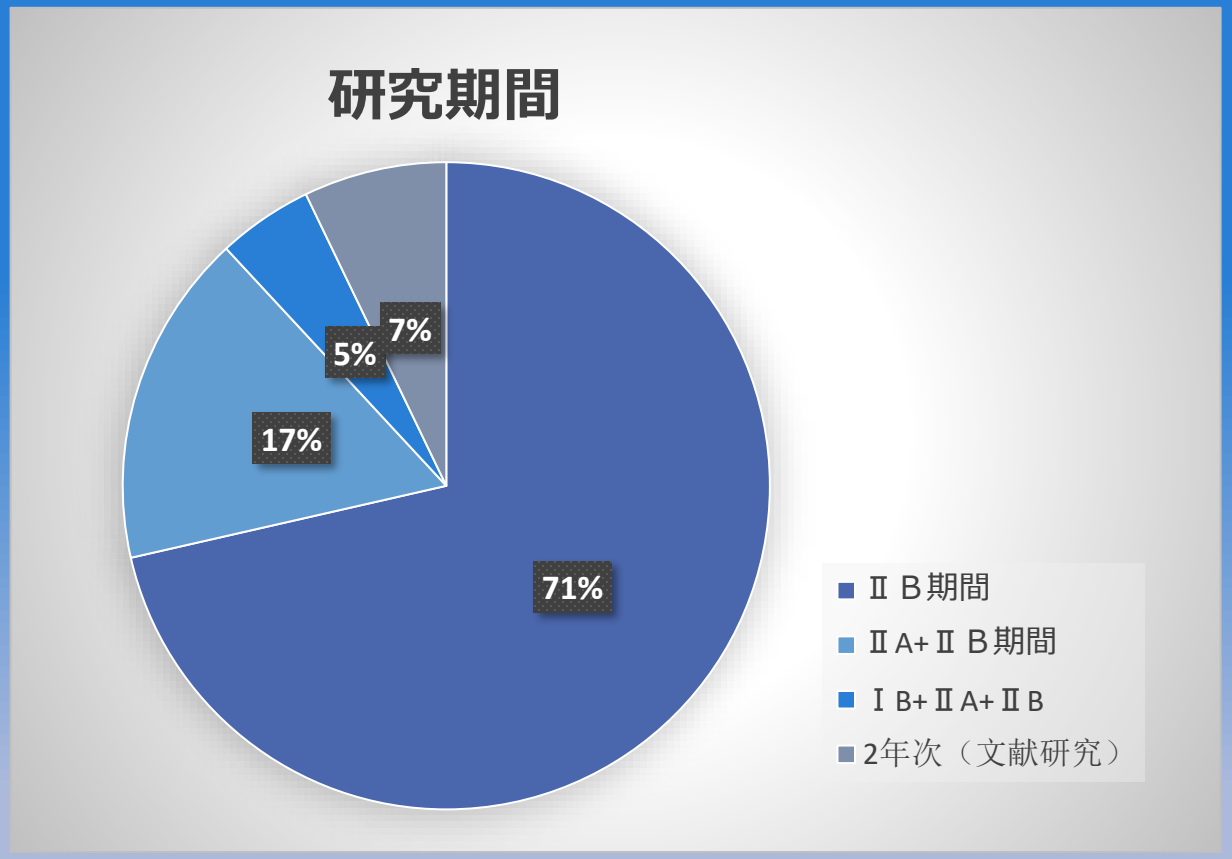


●介護実践の事例研究が中心
（33/42件）

●職員へのインタビュー調査（5件）
障害受容と支援
終末期の意思決定支援
利用者間のトラブル
介護職の職場環境や健康

●文献研究　（4件）

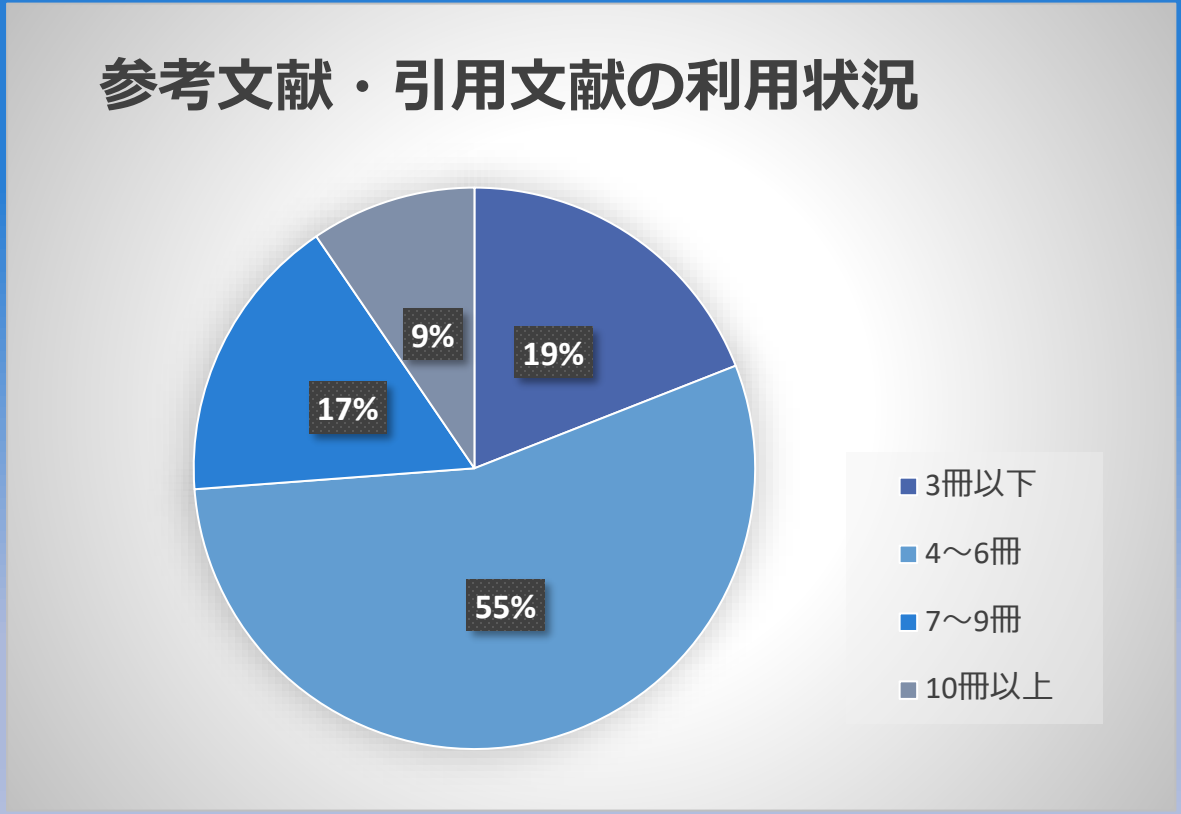
結　果
（4）研究期間

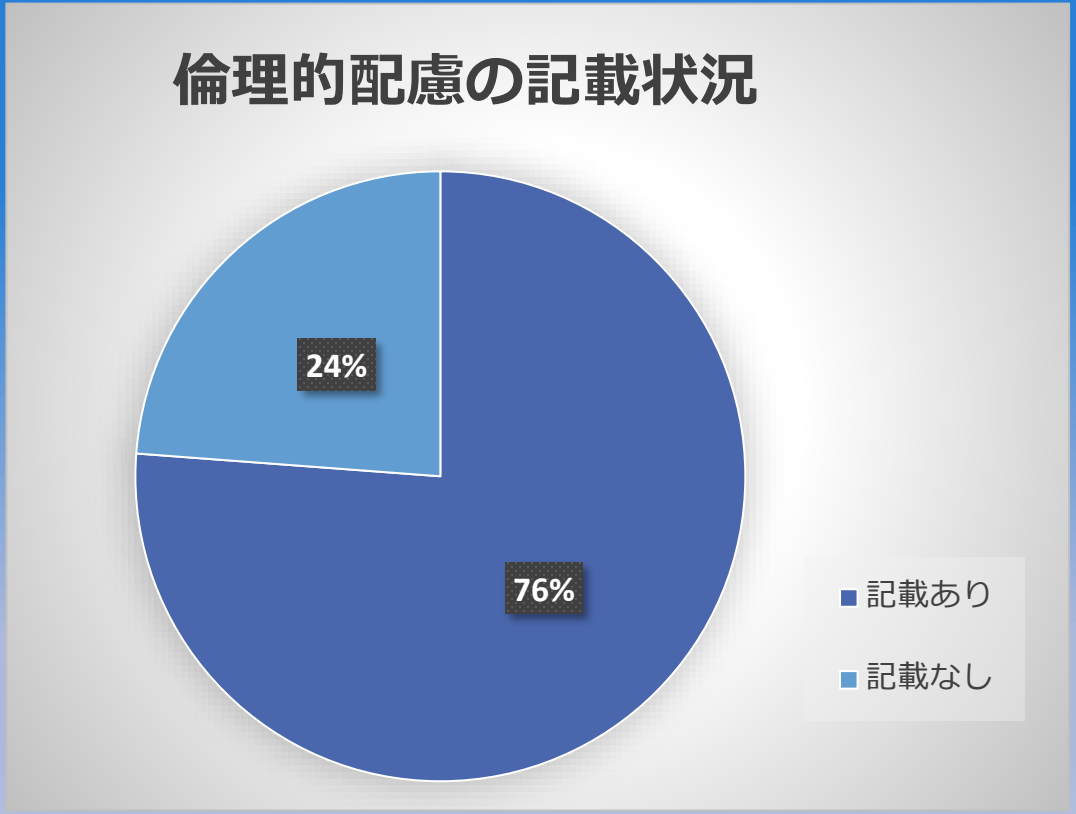


ⅡB（2年次10月）実習中が7割、
ⅡA（同5-6月）から開始が2割弱。

２年次から研究を開始するもの
が大多数だが、１年次11月の
実習日誌の記録をデータとして
活用したケースも2件あった。

結　果
（5）文献利用･倫理的配慮の記載状況





今後の課題

実習事例を扱うため施設との連携は不可欠であり、
個人情報の扱いには細心の注意を払う必要がある。
利用者情報を漏らさないために、抄録には個人が特定できる情報を記載せず、発表会は専攻教員と学生のみで行う。
このため実習指導者の招待は実現できていない。

今後、実習施設への報告をはじめとして研究成果をどのような形で還元していくべきか、専攻内で議論が続いており、
個人情報保護に抵触しない研究成果公開が課題である。

ご清聴
ありがとうございました